

2026年度 1年生 表現文化学科履修系統図(2026年4月1日)

A 卒業必修 E 司書必修科目 I 上級秘書士（メディカル秘書）必修関連科目
B 教養卒業選択必修 F 司書選択科目 J 上級秘書士（メディカル秘書）選択関連科目
C 専門卒業選択必修 G 上級秘書士必修関連科目
D 選択 H 上級秘書士選択関連科目

入学前教育

2026年度 1年次			2027年度 2年次		
前期	通年	後期	前期	通年	後期
B 芸術に親しむ	AGI キャリア形成ゼミⅠ	B 女性学	C 日本近代文学	AGI キャリア形成ゼミⅡ	DE 生涯学習概論
D こども未来学	D 健康とスポーツ	BJ 身体のしくみと働き	C 文芸創作（詩歌）	C 卒業研究	C 文芸創作（小説）
B 日本国憲法	B ＊ウィンドアンサンブル入門	DK データサイエンス入門	C 身体表現創作		C プレゼンテーション演習
BHJ 女性と社会生活	A ＊地域文化論	B プレゼンテーション入門	C 身体表現創作		CEJ プロジェクト演習
B 生活と環境		A 英語Ⅰ-B	CHJ 日本語表現		C 言語文化ゼミナールⅡ
BHJK マルチメディア演習		A 『読む』ということⅡ	C 言語文化ゼミナールⅠ		C 身体表現ゼミナールⅡ
D ダンス入門		A 『書く』ということⅡ	C 身体表現ゼミナールⅠ		
A 英語Ⅰ-A		A 日本語・日本文学の歴史			
AHJ 『読む』ということⅠ		C 古典の森へ			
AHJ 『書く』ということⅠ		BE 子どもと読書			
AHJ 『話す聞く』ということ		A 戯曲に親しむ			
BHJ 日本文化		A 身体表現基礎			
A 表現入門		C 書道Ⅱ			
C 書道Ⅰ					
E 図書館概論					
GI 秘書学概論					
GI ＊秘書実務					

＊ →（通年分を半期で開講）

＊ →（年間15回開講）

前期→(前/)、後期→(後/)、＊→（通年分を半期で開講）

1,2年生 同時開講および隔年開講 2026年度（令和8年）

前/C 漢文学	前/E 図書館情報技術論	後/E 図書館基礎特論1/4期
前/C 漫画の世界	前/C 書物論1/4期	後/I メディカル秘書概論
	後/E 情報サービス論	後/I メディカル秘書実務
	後/E 情報資源組織論	＊後/J 診療報酬実務

1,2年生 同時開講および隔年開講 2027年度（令和9年）

前/E 図書館サービス概論	＊前/GFHJL 図書館活動演習	後/CHJL 人間関係論
前/E 図書館情報資源概論	＊後/E 情報サービス演習	後/E 図書館制度・経営論
前/C 映像の世界（開講せず）	＊後/E 情報資源組織演習	後/HJL 事務管理
	＊後/G 秘書実務演習	

思考力・理解力・表現力を伸ばし創造性に富んだ女性

一般企業・公務員等

表現文化学科の教育目標は、思索と創造の確立―読み、書き、考え、調べ、表現する能力を養うことにあります。そのため幅広い教養と感性豊かな心や実践的能力の伸長に重点を置いた共通教養科目と専門科目とをバランスよく配置しています。これらの授業を通して視野を広め、思考力を高め、表現能力・課題探求能力を身につけ、集大成としての卒業研究によって創造性が生み出せるように配慮しています。人間の最も基本的な力である思考力・理解力・表現力を伸ばし、優れた感性と「心」を基準とした精神の豊かさを求め育成することを目指し、創造性に富んだ女性を育むことを目標としています。

教育方針所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士(国文学)の学位を授与します。

課程卒業にあたっては、以下の点に達していることが求められます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

CP	1 教養課程をおき、人格高き現代女性の育成を図る。 2 資格課程をおき、地域社会の一員として社会に貢献できる実務能力を養成する。 3 専門教育課程をおき、日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などを多角的かつ体系的に学ぶ。特に演習および卒業研究においては、表現能力を磨き、自立した学習者として集大成に向け、たゆめ努力を積み重ねることを体得する。
----	--

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP	1 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 2 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。 3 コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 4 日本語やささまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。
----	--

2026年度 1年生 こども学科履修系統図(2026年4月1日)

A 卒業必修
B 選択
C 幼稚園教諭二種必修
D 保育士必修
E 幼稚園教諭二種免選択
F 保育士選択
G 保育士選択必修
H こども音楽療育必修
I こども音楽療育選択
J 准学校心理士必修

2026年度 1年次		2027年度 2年次					
前期		後期		前期		後期	
通年		通年		通年		通年	
B	芸術に親しむ	AD	キャリア形成ゼミⅠ	AD	社会福祉	AD	キャリア形成ゼミⅡ
D	こども未来学	CD	健康とスポーツ	D	社会的養護Ⅰ	C	子どもの食と栄養
C	日本国憲法	ACD	英語Ⅰ	DI	子どもの理解と援助	CDIJ	特別支援教育の基礎
B	女性と社会生活	B	・ウィンドアンサンブル入門	CEIJ	音楽演習Ⅰ	AD	ゼミナール
B	生活と環境			H	保育内容演習（環境）		
CK	マルチメディア演習			CD	保育内容演習（言葉）		
B	ダンス入門			CD	保育内容演習（表現）		
AD	保育原理			CD	教育の方法と教育メディア		
ACDIJ	保育の心理学			CF	保育指導法		
ADI	子どもの保健			D	保育実習指導Ⅰ→B		
ADH	幼児と音楽Ⅰ			D	保育実習Ⅰ（施設）		
D	幼児と音楽Ⅱ			G	保育実習指導Ⅱ		
ACD	幼児と健康Ⅰ			G	保育実習Ⅱ		
CF	幼児と環境			G	保育実習指導Ⅲ		
CF	教育課程論			G	保育実習Ⅲ		
ACD	保育内容総論						
D	乳児保育Ⅰ						
C	教育実習指導						
H	こども音楽療育概論						

★ →（年間15回開講）

子どもや家庭を取り巻く様々な環境が大きく変化し保育者に求められる役割はますます拡大してきています。子どもの豊かな育ちを支えるためには、一人ひとりの生命を尊重し、小さな声に耳を傾け、しっかりと寄り添うことが大切です。また、子育てに関する様々な問題に関心を持ち、家庭や地域の環境についても心を配ることが必要です。「時代に適応できる堅実な女性の育成」を校是とする本学の保育科では、「専門知識と技術を修得し豊かな人間性と、今日的な課題に対処できる知性と実践力を身につけた保育者を要請する。」ことを目標としています。

教育方針所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士(保育)の学位を授与します。

課程卒業にあたっては、以下の点に達していることが求められます。

CP	1 社会のニーズに対応した保育者の養成を図る。 2 保育理論に基づき実践を重視した教育課程を編成する。 3 保育の専門的知識、技術を習得することができる保育者を養成する。
DP	1 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 2 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 3 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。

2026年度 2年生 表現文化学科履修系統図(2026年4月1日)

A 卒業必修 E 司書必修科目 I 上級秘書士（メディカル秘書）必修関連科目
B 教養卒業選択必修 F 司書選択科目 J 上級秘書士（メディカル秘書）選択関連科目
C 専門卒業選択必修 G 上級秘書士必修関連科目 K 数理データサイエンスAI教育プログラムR8認定申請科目
D 選択 H 上級秘書士選択関連科目

入学前教育	2025年度 1年次						2026年度 2年次					
	前期		通年		後期		前期		通年		後期	
	BHJ	日本文化	AGI	キャリア形成ゼミⅠ	BE	子どもと読書	C	日本近代文学	AGI	キャリア形成ゼミⅡ	DE	生涯学習概論
一般企業・公務員等	B	芸術に親しむ	D	健康とスポーツ	B	女性学	C	文芸創作（詩歌）	C	卒業研究	C	文芸創作（小説）
	D	こども未来学	B	＊ウィンドアンサンブル入門	BJ	身体のしくみと働き	C	身体表現創作			C	プレゼンテーション演習
	B	日本国憲法	A	＊地域文化論	DK	データサイエンス入門	CHJ	日本語表現			CEJ	プロジェクト演習
	BHJ	女性と社会生活			B	プレゼンテーション入門	C	言語文化ゼミナールⅠ			C	言語文化ゼミナールⅡ
	B	生活と環境			A	英語Ⅰ－B		身体表現ゼミナールⅠ			C	身体表現ゼミナールⅡ
	BHJK	マルチメディア演習			A	『読む』ということⅡ						
	D	ダンス入門			A	『書く』ということⅡ						
	A	英語Ⅰ－A			A	日本語・日本文学の歴史						
	AHJ	『読む』ということⅠ			A	戯曲に親しむ						
	AHJ	『書く』ということⅠ			A	身体表現基礎						
	AHJ	『話す聞く』ということ			C	書道Ⅱ						
	C	古典の森へ										
	A	表現入門										
	C	書道Ⅰ										
	E	図書館概論										
	GI	秘書学概論										
	GI	＊秘書実務										
* →（通年分を半期で開講）												
＊ →（年間15回開講）												
前期→（前/）、後期→（後/）、＊→（通年分を半期で開講）												
1,2年生 同時開講および隔年開講 2025年度（令和7年）												
	前/E	図書館サービス概論	＊前/G/H/J/L	図書館活動演習	後/CH/L	人間関係論						
	前/E	図書館情報資源概論	＊後/E	情報サービス演習	後/E	図書館制度・経営論						
			＊後/E	情報資源組織演習	後/H/J/L	事務管理						
			＊後/G	秘書実務演習								
1,2年生 同時開講および隔年開講 2026年度（令和8年）												
	前/C	漢文学	前/E	図書館情報技術論	後/E	図書館基礎特論1/4期						
	前/C	漫画の世界	前/C	書物論1/4期	後/I	メディカル秘書概論						
	前/C	映像の世界（開講せず）	後/E	情報サービス論	後/I	メディカル秘書実務						
			後/E	情報資源組織論	＊後/J	診療報酬実務						

表現文化学科の教育目標は、思索と創造の確立―読み、書き、考え、調べ、表現する能力を養うことにあります。そのため幅広い教養と感性豊かな心や実践的能力の伸長に重点を置いた共通教養科目と専門科目とをバランスよく配置しています。これらの授業を通して視野を広め、思考力を高め、表現能力・課題探求能力を身につけ、集大成としての卒業研究によって創造性が生み出せるように配慮しています。人間の最も基本的な力である思考力・理解力・表現力を伸ばし、優れた感性と「心」を基準とした精神の豊かさを求め育成することを目指し、創造性に富んだ女性を育むことを目標としています。

教育方針所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士(国文学)の学位を授与します。

課程卒業にあたっては、以下の点に達していることが求められます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

CP	1 教養課程をおき、人格高き現代女性の育成を図る。 2 資格課程をおき、地域社会の一員として社会に貢献できる実務能力を養成する。 3 専門教育課程をおき、日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などを多角的かつ体系的に学ぶ。特に演習および卒業研究においては、表現能力を磨き、自立した学習者として集大成に向け、たゆまぬ努力を積み重ねることを体得する。
----	---

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP	1 日本語・日本文学・書道・書物・身体表現などに関する知識や鑑賞能力を修得している。 2 社会人としての責任感を持ち、社会的な規範にのっとり誠実な行動ができる。 3 コミュニケーション能力を身につけ、社会人として協和できる力を有している。 4 日本語やささまざまな表現能力を活用し、自立した人間として社会生活を勤勉に営む能力を有している。
----	--

思考力・理解力・表現力を伸ばし創造性に富んだ女性

一般企業・公務員等

2026年度 2年生 こども学科履修系統図(2026年4月1日)

A 卒業必修
B 選択
C 幼稚園教諭二種免許
D 保育士必修
E 幼稚園教諭二種免選択
F 保育士選択
G 保育士選択必修
H こども音楽療育必修
I こども音楽療育選択
J 准学校心理士必修
K 数理データサイエンスAI教育プログラムR8認定申請科目

2025年度 1年次				2026年度 2年次											
前期		通年		後期		前期		通年		後期					
入学前教育		日本文化	AD	キャリア形成ゼミⅠ		子どもと読書	C	教育実習	DⅠ	社会福祉	AD	キャリア形成ゼミⅡ	D	子ども家庭支援論	
	B	芸術に親しむ	CD	健康とスポーツ	AD	女性学	H	こども音楽療育実習	D	社会的養護Ⅰ	C	子どもの食と栄養	DⅠ	子どもの理解と援助	
	D	こども未来学	ACD	英語Ⅰ	B	身体のしくみと働き			DⅠ	子どもの理解と援助	CDⅠJ	特別支援教育の基礎	DⅠ	子ども家庭の心理学	
	C	日本国憲法	B	・ウィンドアンサンブル入門	DK	データサイエンス入門			CEⅠJ	音楽演習Ⅰ	AD	ゼミナール	CEⅠJ	幼児理解と教育相談	
	B	女性と社会生活				プレゼンテーション入門			H	保育内容演習（環境）			H	音楽演習Ⅱ	
	B	生活と環境			CD	教育原理			CD	保育内容演習（言葉）			CD	保育内容演習（健康）	
	CK	マルチメディア演習			CD	保育者論			CD	保育内容演習（表現）			CD	保育内容演習（人間関係）	
	B	ダンス入門			D	子ども家庭福祉			DJ	子育て支援			DⅠ	子どもの健康と安全	
	AD	保育原理			F	幼児と音楽Ⅲ			CD	教育の方法と教育メディア			D	社会的養護Ⅱ	
	ACDⅠJ	保育の心理学			AD	幼児と造形			D	保育実習指導Ⅰ—B			CF	保育指導法	
	ADI	子どもの保健			CD	幼児と表現			D	保育実習Ⅰ（施設）			AD	総合表現	
	ADH	幼児と音楽Ⅰ			D	幼児と健康Ⅱ			G	保育実習指導Ⅱ			CD	保育・教職実践演習（幼稚園）	
	D	幼児と音楽Ⅱ			CD	幼児と言葉			G	保育実習Ⅱ					
	ACD	幼児と健康Ⅰ			DH	音楽演習Ⅲ			G	保育実習指導Ⅲ					
	CF	幼児と環境			D	保育の計画と評価			G	保育実習Ⅲ					
	CF	教育課程論			D	乳児保育Ⅱ									
	ACD	保育内容総論			D	保育実習指導Ⅰ—A									
	D	乳児保育Ⅰ			D	保育実習Ⅰ（保育所）									
	C	教育実習指導			H	こども音楽療育演習									
	H	こども音楽療育概論													
												知性や実践力を身につけた保育者	幼稚園・保育園・認定こども園・児童福祉施設等		

子どもや家庭を取り巻く様々な環境が大きく変化し保育者に求められる役割はますます拡大してきています。子どもの豊かな育ちを支えるためには、一人ひとりの生命を尊重し、小さな声に耳を傾け、しっかりと寄り添うことが大切です。また、子育てに関する様々な問題に関心を持ち、家庭や地域の環境についても心を配ることが必要です。「時代に適応できる堅実な女性の育成」を校是とする本学の保育科では、「専門知識と技術を修得し豊かな人間性と、今日的な課題に対処できる知性と実践力を身につけた保育者を要請する。」ことを目標としています。

教育方針所定の単位を修得した者には卒業を認定し、短期大学士(保育)の学位を授与します。

課程卒業にあたっては、以下の点に達していることが求められます。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

CP	1 社会のニーズに対応した保育者の養成を図る。 2 保育理論に基づき実践を重視した教育課程を編成する。 3 保育の専門的知識、技術を習得することができる保育者を養成する。
----	---

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

DP	1 社会に貢献するための専門的な知識と技術を修得している。 2 子どもの育ちを支援できる豊かな人間性と協和の心を身につけている。 3 誠実かつ勤勉に学び続ける力を身につけている。
----	---